

学部長に聞く

就実大学 薬学部長 五味田 裕先生

● 就実大学がめざす 薬学教育を教えてください

医療の中で薬物(医薬品)治療は、欠くことができません。しかし医薬品の効き目がシャープになるにつれて、副作用・相互作用が心配されます。

とくに「がん」、「感染症」、「精神科」などの領域は、薬剤師のもつ医薬品の有効性と安全性の情報が医師の治療方針を左右します。臨床現場では、治療効果を高め、また薬害から患者さんを守るために「薬の専門家・薬剤師」の存在がますます重要性を増しています。

その代表例が、専門薬剤師や認定薬剤師など高度な専門知識をもち、治療に参画する薬剤師です。薬剤師は一生の仕事に相応しい職業だと私は思います。

就実大学は「薬剤師になりたい」という皆さんの目標を実現する大学です。私たちは将来、専門薬剤師、認定薬剤師となれる実力ある人材の育成をめざしています。

● その教育目標を実現するための 工夫はありますか

臨床現場で活躍するには、患者本位のチーム医療に参画できる能力が必要です。患者さんのために何が必要かを考え、提案できる力。「深い専門知識をベースに考える薬剤師の育成」が、私たちがめざす教育です。

そのため、できるだけ早期に医療現場の体験を行います。病院・薬局では、病(やまい)に苦しむ患者さんに対して薬剤師がどのように取り組んでいるかを肌で感じます。また製薬会社では、薬がどのように創られるかを見学します。薬剤師という仕事に対する意識づけを早い段階で行っております。

本学薬学部の入学者の顔ぶれは実に多彩です。文系・理系大学を卒業後に入学する学生も



薬学部長 五味田 裕先生



就実大学は
「薬剤師になりたい」という
皆さんの目標を実現する大学です

います。文系出身の人の中にも「薬剤師になりたい」という強い思いをもって学ぶ人がたくさんいます。就実大学では少人数のクラス担任制を採用し、学生個人の相談を受け学習指導を行っています。様々な学生のニーズに応え、医療薬学の知識、技能の習得ばかりでなく問題解決能力の醸成と薬剤師国家試験合格レベルまでの学力を高めるべく教育を行っています。

● 4年制度最後の第94回薬剤師国家試験は いい成績でした

私たちに、入学した学生を卒業させ、薬剤師国家資格を取得させる使命があります。先ほどお話したように就実大学薬学部には文系出身者も学んでいます。そんな多様な学生がいる中で、薬剤師国家試験で合格実績を残すことは大変なことです。学年全体のレベルを上げなければ高い合格率とはなりません。

幸い、就実大学には優秀な教員がいます。薬学教育の礎は有機化学などのサイエンスです。その教育が薬剤師としての基礎を築きます。また幸運にも実務家教員をたくさん採用することができ、実践的な薬学教育が実現できております。その成果が、次第に現れていると思います。

就実大学として4年制度の薬剤師国家試験への挑戦が続いておりますが、毎年確実に合格率を上げております。第94回薬剤師国家試験は、93.7%という合格率で全国的にも大変高い成績でした。現在、6年制度の学生は2年後に国家試験を控えています。更に合格率を上げたいと考えています。

● 実務家教員を中心とする 先生方の存在が大きいようです

実務家教員は、病院出身の先生が7名、薬局出身の先生が1名おられます。病院出身の先生方は今でも臨床現場と常時交流しておられますので、いつでも現場に戻ることができる状態です。おかげさまで、実務実習病院・薬局の確保ではあまり苦労することがありませんでした。以前私が病院勤務時、薬学生への指導の際、地域の

方々に模擬患者としてボランティアをお願いしたことがありました。その経験を活かして、ボランティアの模擬患者をお願いし、学生のコミュニケーション能力養成にご協力いただいています。医療現場に近い環境で学ぶことに薬学教育の意味があると思います。

● 6年制薬学教育後半において、医療人になるために薬学部独自のアドバンス科目 が設定されていると聞きますが――

臨床現場での長期実習の直前に、最先端の医療を施している大学病院などの医師、薬剤師、看護師の先生方から、臨場感あふれた授業をしていただきます。また一般に馴染みのある漢方薬について、さらにチーム医療、専門薬剤師などについて直接関わっている先生方から指導を受けます。

また、5年次生の夏休みには、オーストラリア「クイーンズランド大学」で、約2週間にわたり海外研修を行います。将来国際的な視野にたった医療人になることを目指して実用薬学英語、ならびに海外での医療における薬学、また患者さんへの接し方、さらに医療体制などを学びます。また海外の病院・薬局(コミュニティファーマシー)も訪問し医療現場の実際を見学します。きっと実り豊かな、思い出に残る楽しい研修になることでしょう。

● 学生に対するサポート体制も 充実していると聞きますが……

大学で学ぶうちに経済的な問題が生じるなど、様々な課題が持ち上がるかもしれません。経済的な理由で「薬剤師になりたい」をあきらめるのは残念です。そこで薬学部ではスカラーシップ(奨学支援)制度を導入して学生の学びを経済的な側面からも支援しています。また、医薬業界各社にもご協力いただき奨学支援制度も用意させていただいております。さらに強力なサポート体制にしたいと考えています。就実大学は、薬剤師になりたいという皆さんを大切に育てています。